

同じ地球に住んでいるのに…。

倉敷市・第二福田小4年 河田 瀬里香

スーダン国内の争いで、約二百万人もの人が死亡したという記事を読んで、その様な光景など想像できなくて、しばらく動けませんでした。

戦争からのがれて、他の国へたどり着いた人々は、キャンプ暮らしをします。きつと大変な生活だろうと思います。ケニア北部では、二〇〇〇年をすぎても、井戸から水をくみ、キャンプまで運びます。キャンプ暮らしをしているスーダンの少女達は、毎日、何度水くみをします。私にはせつ対できないので、生活のためとはいえ、スーダンの少女達はすごいと思います。

その時、もしも水道から水が出なくなったら、私達の生活は、どうなるんだらうと考えました。水が飲めない、ご飯がたけない、お風呂にも入れない…。この様に水は私達の生活に欠かせない物だと改めて実感しました。

さらに、水くみをしているスーダンの少女達は、勉強したくても、できませんでした。学校もないし、教科書もありません。学校がある地域でも、先生が少なく、また、中学校がないので、進学ができません。

この事を知った時、私はとてもはかしくなりました。私は、平和な日本に生まれ、衣食住に何不自由ない環境で生活できて、当たり前のように小学校に通っています。それなのに、「宿題が多いなあ。」とか、「苦手な給食の献立だなあ。」と書いていた自分がどれだけ恵まれたか、考えたり、不思議に思ったり、調べたりすること、いろいろな事が分かりました。新聞は、世の中の動きを知るには、とてもすばらしいと思います。

わがままやせい沢な気持ちになった時、この新聞記事を読み出して、自分の置かれた環境や物事に感謝の心で、何事にも努力をおしまない様にしていきたいです。

この記事を讀んで、南スーダンについて、調べました。アフリカで五十番目の独立国として、二〇一一年七月九日に南スーダン共和国が生まれました。

外国からのえん助で学校ができて、七割の子供が学校へ行けない状態です。

ここで、一つ疑問がうかんできました。「どうして、同じ地球に存在する国々であるのに貧富の差が生じるのだ

ろうか。そして、それを解決するにはどうしたらいいのだろうか。」

貧しい国はたくさんあるけれど、南スーダン共和国は、独立したのだから、外国からのえん助を受けるだけでなく、自分たちの力で国を豊かにする様に努力するべきだと思います。そのためには、将来を担う子供達全員が教育を受けられる様に学校をたくさんつくったらいいいと思います。

一つの新聞記事で、記事に書いてある事だけでなく、考えたり、不思議に思ったり、調べたりすること、いろいろな事が分かりました。新聞は、世の中の動きを知るには、とてもすばらしいと思います。

南スーダン 独立までのけわしい道

キャンプへ水運ぶ少女たち



ケニア北部 頭にポリタンクをのせキャンプへ水を運ぶ少女たち

アフリカで54番目の独立国として「南スーダン共和国」という国が、7月9日に生まれた。独立までの道はけわしかった。1983年からスーダン国内での戦いでは約200万人

人が死に、多くの人々がほかの国にのがれた。ケニア北部では2000年をすぎても、井戸からくんだ水をポリタンクに入れ、頭にのせてキャンプまで運ぶ少女をよく見かけた。学校に行っているのだろうか」と心配になるくらいに、少女たちは水くみばかりしていた。いつでも水道から水が出てくる日本ではわからないことだが、水は本当に大切なものだ。



南部スーダンでは2004年まで、女子は勉強する機会がなかった。女の子も学校に行く。水道から水がちゃんと出る。そんなふうなのが、南スーダンでは大きな挑戦なのだ。

(写真と文・フォトジャーナリスト中野智明)

2011年9月26日付 山陽新聞さん太タイムズ

寸評

南スーダン共和国の現状を伝える記事を元に、同国について調べ学習を行い、自分たちの

環境や生活との違い、教育の実態など理解を深めた。同国が抱える課題について、自分なりの解決法も示した。